

権寺

浄土宗
池中山 盈満院

浄土宗

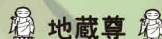
浅草蔵前(旧正覚寺)
台東区蔵前三丁目二十九



ちちゅうざん ようまんいん かやでら
池中山 盈満院 権寺



宗派：浄土宗
宗祖：法然上人
開山：普光観智国師 (増上寺中興)
本尊：阿弥陀如来三尊
守護神：秋葉大権現



地藏尊

- ・地藏尊厄除地藏 【高村光雲 作】
- ・飴なめ地藏 【永井荷風『日和下駄』】
- ・地藏尊お初地藏 【講談師 玉川スミさん 建立】

区指定文化財

- ・紙本着色権寺縁起絵巻 全四巻 江戸時代の著名な文化人が制作
- ・紙本墨書権寺縁起并防火宝符来由 境内に権寺縁起碑文が現存
- ・銅造観音菩薩坐像 江戸を代表する鑄物師の作風を伝える貴重な遺品
- ・木造秋葉権現騎狐像 江戸時代に信仰を集めた火伏の神秋葉大権現

都指定旧跡史跡 (石川雅望の墓)

国文学者、江戸後期(史上初)のいろは引き古語辞典『雅言集覧』の著者、狂歌師、宿屋飯盛・六樹園と号し、狂歌四天王の一人。戯作者としても活躍。

著名人の墓

女義太夫の初代・竹本綾之助。歌舞伎の市川九蔵。相撲の大童山文五郎、横綱安芸海、鏡山。日本画の勝川春亭、窪春満。洋画の安井曾太郎。野球シリーズ鈴木竜二。

アクセス



〒111-0051 東京都台東区蔵前3-22-9

☎ 03 (3851) 4729 ㊚ 03 (3851) 9770

予言通り。この地に幕府が移り、人が集まり賑わった。偶然、権寺は將軍家康公の知恵袋増上寺の観智国師の目に留まった。観智国師は、珍しい大木の廻りを流れる川の清澄な水が溢れるこの閑寂な地で静かに念仏したい。と、考えた。そして、立派な浄土宗のお寺を建て池中山 盈満院 正覚寺と名付けられた。



これもまた、予言通り。江戸は大火事に幾度も見舞われたが、火は権寺の門前で止まり、沢山の人の命を救った。九代住職の大火事の時、人々を守った権の大木は焼けてしまったが、残った幹から秋葉大権現の像を造り、お礼と共に本尊の脇に納めた。その後も約束は守られ火の難から救われた正覚寺は、江戸の人々に権寺と呼ばれ親しまれ、後に正式名称となった。

文化十一年、権寺檀徒石川雅望 詞書を執筆。文化十一年、栗原信充画。『紙本着色権寺縁起絵巻』より



今も絵巻は、色褪せる事なく寺宝として残っている。

KAYADERA BUDDHIST TEMPLE

本尊 阿弥陀如来三尊



榎寺同黒船町小の浄土宗いこ増上寺属す池山正覚寺と号す。本尊阿弥陀如来八恵心像作と。開山観智国師の往生木の榎なり

人々から親しまれた大榎は秋葉大権現に姿を変え500年の法燈を守っています。

秋葉権現騎狐像

銅造観音菩薩坐像
宝暦年中、いもじ こがわいちのかみ 鑄物師粉川市正が制作。
いもじ たがわみんぶ 鑄物師多川民部が修理。遺作が少ない江戸の鑄物師による貴重な遺品として新しく区指定文化財に登記されました。

11代将軍 家斉 石灯籠

徳川11代将軍家斉公墓前(寛永寺)の石灯籠の一基。維新後、徳川霊廟の多くが焼失する中、当時幕府軍彰義隊の一派入虎隊の屯所となっていた榎寺に、辿り着いた家斉いもじにも思えます。歴代将軍の中で在職期間が最長の50年、子供は最多の55人、男28人、女27人とバランス良い子宝にもあやかりたいですね。

江戸名所圖會の榎寺の解説によれば、本尊の阿弥陀如来は恵心僧都の作と伝えられています。

榎寺の高燈籠 作 葛飾北斎(1760-1849)

狂歌絵本「隅田川兩岸一覽」(ボストン美術館所蔵)高燈籠とは、お盆にご先祖様が目印にする盆提灯を高く吊るしたもの。画の手前の青い榎寺の屋根と左脇の榎の木の間から伸び、上にはみ出て描写されています。まだ厩橋がなかった江戸の隅田川に、榎寺の盆名物の高燈籠が吊るされ、それを目印に御厩河岸の渡し舟の乗合が賑わう情景が伝わってきます。



紙本墨書榎寺縁起并防火宝符来由

1792(寛永4)14代住職が榎寺縁起を漢文表記した石碑。
空襲により変色した表面は爆撃の激しさを伝えています。

女義太夫 初代 竹本綾乃助(1875-1942)

明治時代に一世を風靡した美少女。没後70年特別公演では、女優の山本陽子さんが綾乃助を演じ現代に蘇りました。

初代 竹本綾乃助の墓

1922(延11)榎寺檀徒の娘お初(10歳)が養子先の虐待を受け隅田川で見つかった事件。当時7歳の座長玉川スミさん率いる「お初地蔵劇団」が『継子いじめお初地蔵尊』の芝居に仕組み

バラバラ殺人事件の芝居に仕組み大衆の涙を誘い大流行！境内には21代住職が供養したお初地蔵と、お初を演じた玉川スミさん建立の新しいお初地蔵と他、全3体があります。



厄除地蔵尊 作 高村光雲(1852-1934)

初期は仏師。維新後は上野の西郷隆盛像などを遺す彫刻家。息子は作家の高村光太郎。光雲は江戸の大火の体験を『幕末維新懐古談・焼け跡の身惨な話』に「今度の火事は変な火事で急に西風になったために蔵前の家々は残りました。ちょうど黒船町の御厩河岸で火は止まりました。榎寺の扉や門は焼けて本堂は残っていた。」と榎寺縁起とよく似た不思議な話をしています。

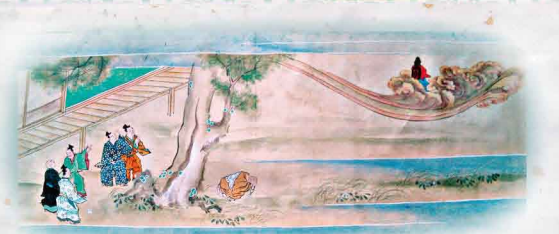
飴なめ地蔵尊

永井荷風(1879-1959)は著書『日和下駄』に「御厩河岸の榎寺には虫歯に効験のある飴なめ地蔵」と紹介していますが、本来は百日咳の平癒を願いお供えした飴を舐めると咳が癒えたと伝えられています。

今から五〇〇年前。戦国動乱の世の頃。隅田川の畔に樹齢千年の大榎が茂っていた。その根本の草庵に念仏を説く僧がいた。ある日、山伏が草庵を訪れ、珍しい榎の実を大変気に入った。山伏は僧に榎の実を賭け「碁の腕比べ」を申し出した。



碁を得意な僧もこの日は、あっさり負けてしまった。 いぎ、対局...



勝った山伏は、遠江の秋葉山へ雲に乗り帰っていった。翌年、秋葉山には、沢山の榎の実がなり、山伏は大変喜んだ。山伏は再び訪れ、自身が火伏せの神、秋葉大権現である事を明かした。そして、この地が国の中心になると予言した。榎の実のお札に榎寺へ守る事を約束した。